

令和3年度 東村山市立東村山第二中学校 学校経営計画

校長名 篠原政一

1 学校教育目標

本校は、普遍的かつ個性的な文化の創造と豊かな社会の実現を目指し、平和的な国家及び社会の形成者として自主的精神に満ちた健全な人間の育成と、日本の歴史や文化を尊重し、国際社会に生きる日本人の育成を目指す。また、自分を大切に、他の人の大切さを認める生徒の育成するために、次の目標を定める。

- **自ら学び考え行動する人になろう** [自主]
- **広く他を思いやる人になろう** [豊かな心]
- **心身を鍛え健康な人になろう** [健康]

2 目指す学校像

- 生徒が様々な場面で自主的に行動し、達成感や充実感を得ることのできる学校
- 自尊感情や自己有用感を高めながら、生徒の可能性を最大限に伸ばすことができる学校
- 保護者や地域社会の期待に応え、生徒と教師の信頼関係が築かれている学校

3 目指す生徒像

- 目標に向かって自主的に学び、積極的に行動できる生徒
- 自他ともに尊重し、広い視野から多面的・多角的に考えることのできる生徒
- 心身ともに健康で、自分の目標や可能性に挑戦できる生徒
- 集団や社会の一員として自覚し、地域社会に貢献できる生徒

4 前年度までの学校経営上の成果と課題

(1) 成 果

- ◇ 東村山市教育委員会研究奨励校(H27.28)として「自尊感情や自己肯定感を高める教育活動の工夫」について、継続的に研究や実践した成果をさらに充実・発展させることができた。
- ◇ 生徒指導主任を中心に、情報の共有化や指導方針を明確にし、指導の統一を図ることができた。
- ◇ 関係機関やS S W等と連携を図ることで、学校不適応生徒への個別対応を効果的に行い、学校復帰を図ることができた。
- ◇ 毎回の授業の目標や流れを示すことで生徒が主体的に取り組む授業改善を図ることができた。
- ◇ 生徒会が中心となり、様々な教育活動や防災教育の意識を向上させることができた。
- ◇ 特別支援教育を充実させることで、個に応じた指導や支援を図ることができた。
- ◇ 全生徒の保護者を対象に学校評価アンケートを実施し、学校改善に活かすことができた。

(2) 課 題

- ◇ 「主体的・対話的で深い学び」の実現により、学習の質を高める授業改善に取り組む。
- ◇ 保護者と連携しながら、家庭学習の習慣を身に付けさせ、学習内容の定着を図る。
- ◇ 特別の教科 道徳を要にしながら、考え議論する道徳教育を意図的・計画的に進める。
- ◇ 教職員の服務厳守を重視し、能力開発及び人材育成を行う。
- ◇ 保護者や地域との連携・協働を積極的に進め、生徒の健全育成を図る。
- ◇ 東京方式の習熟別指導ガイドラインに沿った学習で、数学の意欲を向上させ、学力を高める。
- ◇ 感染症対策をはじめとして、生徒の安全や健康を最優先にし、ICTを活用しハイブリット授業の研究を行い、「学びの保障」を図る。

5 中期的及び短期的な目標と具体的な取組

(1) 学習指導に関すること

〔中期的な目標〕

- ◇ 学びの本質として重要な「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、ICT を効果的に活用したハイブリッド授業の工夫をするとともに、質的に授業を改善することで、生徒一人一人の学習意欲を高め、学力を向上させる。

〔短期的な目標〕

- ◇ 個に応じた指導を充実させ、基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させる。
- ◇ 知識や技能を身に付けるだけでなく、主体的に考えたり、表現したり、判断する力を育む。
- ◇ タブレットの活用方等の研修を進めながら、効果的に授業への活用を図る。

〔具体的な取組〕

- ◇ 1 単位時間の授業の目標や学習内容を明確に示し、生徒が見通しをもてる授業にする。
- ◇ ユニバーサルデザインの視点に立った学習環境を整備する。
- ◇ 話し合い活動、生徒が主体となる学習活動等の工夫した授業を行う。
- ◇ 指導と評価の一体化を図り、基礎・基本の確実な定着を図る。
- ◇ 生徒を対象にした授業評価の結果から、授業改善推進プランを作成する。
- ◇ 授業規律を徹底し、生徒の学習態度や学習意欲を向上させる。
- ◇ 朝学習や朝読書を通して、学びの習慣や落ち着いた学習環境の改善を図る。
- ◇ 東京方式の習熟別指導ガイドラインに沿った数学指導で学習意欲の向上を図る。

(2) 生活指導・進路指導に関すること

〔中期的な目標〕

- ◇ 学校生活や地域での活動を通して、生徒一人一人が達成感や充実感を味わうことによって、自尊感情や自己有用感を高め、個性の伸長を図る。

〔短期的な目標〕

- ◇ 社会生活に通用する基本的な生活習慣を徹底し、集団の一員としての役割と責任を果たせる生徒の育成を図る。
- ◇ 生徒同士や生徒と教師のよりよい人間関係を構築し、学校生活を充実させ自らの「夢・志」に向かって行動し成長を実感できるようにする。

〔具体的な取組〕

- ◇ 生徒理解の研修や生徒情報の共通理解を通して、統一した指導の下に支援や指導にあたる。
- ◇ 教員自らが挨拶の励行、時間厳守、正しい言葉遣いを実践し、生徒が学校生活のルールを守る態度を身に付けるための指導を徹底する。
- ◇ 教員自らが人権感覚を磨き、体罰や暴言を根絶するとともに、生徒理解に努め、生徒との信頼関係を築く。
- ◇ 家庭や地域との連携を密にし、協働体制の中で生徒の健全育成を推進する。
- ◇ いじめ問題は、「学校いじめ防止基本方針」の下、ふれあい月間でのアンケートや面談、きめ細かい生徒観察を行い、未然防止や早期発見、早期対応、早期解決を全教職員で組織的に行う。また、いじめが複雑化・重大化されると判断した場合は、学校サポートチームを招集し、速やかに対応する。
- ◇ 自然災害等に備え、組織的な危機管理及び安全指導を行なう。そのため、毎月の安全指導、安全点検を行い、生徒の安全確保（校内施設、交通事故防止、不審者対策等）を確実に実行する。

- ◇ 特別の教科 道徳では、考え、討論する道徳を目指し、物事を多面的・多角的に判断する力や実践意欲を培う。
- ◇ 特別支援教室（アーチ）の活用やスクールソーシャルワーカーなど関係諸機関、外部機関との連携を密にして、学校不適応生徒及び家庭支援を推進し、学校・学級復帰を目指す。
- ◇ 多様な価値観を理解し、すべての生徒が自分らしく生活できるように校内環境を整える。
- ◇ 週1回の校内委員会で特別な支援を要する生徒や学校不適応生徒の情報共有を図り、個別指導や支援を積極的に推進する。
- ◇ 1年生全員を対象にSCとの個別面談をなるべく早くに実施するとすることで、中一ギャップの解決を図る。
- ◇ 本校独自の「さくらシート」により、生徒の困り感を保護者と共有し、必要に応じて「個別の支援計画・個別指導計画」の作成を行い、学校全体で支援する。
- ◇ 集団や社会の一員として、積極的に地域社会に参画しようとする態度を育てる。
- ◇ 進路指導主任を中心に、進路指導（キャリア教育）全体計画や年間指導計画に基づき、「キャリア・パスポート」を活用し、3年間を見通した計画的・組織的な進路指導を行う。
- ◇ 生徒の自治的な活動を充実させ、健全で意欲ある学校生活を推進する。
- ◇ 1・2年生を対象に12月にキャリアカウンセリング（教員と生徒の二者面談）を実施する。
- ◇ 人権尊重教育の一環として、第2学年で映画「あん」を視聴することで、人間としての生き方について深める。
- ◇ 地域の教育力や外部人材を積極的に活用して、多面的・多角的な考え方を学ぶ。

(3) 学校運営に関すること

[中期的な目標]

- ◇ 学校経営計画を全教職員に周知し、分掌主任や学年主任を中心とした組織を機能させ、全教職員の参画意識を高め、活力ある学校運営を行う。

[短期的な目標]

- ◇ 企画調整会議や企画委員会を通じて、各分掌間や各学年間の連携調整を図り、組織的・能動的に全体の教育課題の解決を図る。
- ◇ 風通し良い明るい職員室となるようこころがけ、教職員の意欲が高まるよう声かけを管理職から行う。

[具体的な取組]

- ◇ 生徒や保護者の実態や踏まえた学年・学級経営案を作成し、意図的・計画的な学級・学年経営を行う。
- ◇ 学校評議員による学校評価、生徒や保護者からの授業評価・学校生活満足度調査等を学校経営に反映させ、教育活動のさらなる充実を図る。
- ◇ 主幹教諭や主任教諭によるOJT・若手からのボトムアップによる若手・ベテラン相互の交流も併せて行い教員の成長を促す。
- ◇ 常に危機管理意識をもち、平常時の危機管理を充実させ、緊急事態備えとともに、事態が発生した際には組織を生かし、敏速かつ的確に対応する。
- ◇ 限られた予算を有効に活用するため、常に費用対効果を考え、適正に予算執行する。
- ◇ ライフ・ワーク・バランスの実現に取り組み、働きやすい職場環境づくりを推進する。

(4) 特別活動・その他に関すること

[中期的な目標]

- ◇ 集団や社会の一員として、積極的に地域社会に参画しようとする態度を育てるとともに、生徒の自治的な活動を充実させ、健全で意欲ある学校生活を推進する。
- ◇ 生徒の自尊感情や自己有用感を高め、自分らしい豊かな自己実現を目指す。

〔短期的な目標〕

- ◇ 生徒の良さや可能性を最大限に伸ばすため、学校行事や生徒会活動、学級活動、その他の特別活動を意図的・計画的に行う。
- ◇ P T A活動や青少年対策第二地区委員会、地域行事等に生徒と教職員が共に参加する。
- ◇ 通常の授業や特色ある学校行事を公開することで、本校の教育活動の理解を図る。
- ◇ 地域や関係機関の外部人材を積極的に活用することで、学校力を向上させる。

〔具体的な取組〕

- ◇ 自分の役割や責任を果たすとともに、具体的な目標に向かって自ら行動できる「自主・自律」を目指す。
- ◇ 望ましい集団活動を通して、生徒一人一人が達成感や充実感を味わうことで、自分を大切にするとともに、他の人も尊重できる態度を育む。
- ◇ すべての教育活動を通して、自尊感情や自己有用感を高める指導を行う。
- ◇ 生徒会活動やボランティア部を中心にして、地域貢献活動に生徒を参加させる。
- ◇ 学校公式ホームページを定期的に更新し、学校の教育情報を発信する。
- ◇ 学校だより「若樹」を定期的に発行し、家庭や地域（各町内自治会）に配布する。
- ◇ セーフティ教室や職場体験、人権教育などで、地域の教育力を積極的に活用する。
- ◇ 保護者や生徒との緊急時の連絡体制を確保するため、P T Aと協働し、一斉配信ができるメールでの連絡網を構築する。

(5) 特色ある学校づくりに関すること

〔中期的な目標〕

- ◇ 障害の有無にかかわらず、可能な範囲で生徒が共に学び、充実した学校生活を過ごす。
- ◇ 生徒の自尊感情や自己有用感を高め、自分らしい豊かな自己実現を目指す。

〔短期的な目標〕

- ◇ 教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難の改善又は克服するため、適切に支援を組織的に行う。
- ◇ 障害に関する理解啓発活動を行い、共生社会に向けたインクルーシブ教育を実践する。
- ◇ 学習指導や特別活動等を通して、自信をもち、高い目標にチャレンジする態度を育む。

〔具体的な取組〕

- ◇ 特別支援コーディネーターを中心に、校内委員会では生徒情報の共通理解を進め、個に応じた適切な支援や指導を組織的に行う。
- ◇ 特別支援学級との交流及び共同学習、理解啓発の授業等を行い、障害者への理解と思いやりの心を育み、お互いに、認め合い、高め合い、支え合える態度を育成する。
- ◇ ユニバーサルデザインの視点に立った環境を整えることで、全教員の授業力を高める。
- ◇ 学校生活の中で生徒一人一人に自分の役割や責任を果たす場面を設定することで、「やればできる」という達成感や充実感を味わわせる。
- ◇ 特別支援学級（八組）に在籍する生徒を理解するために、第1学年では年度当初に理解啓発授業を行う。
- ◇ 特別支援教室「ARCH（アーチ）」の趣旨を踏まえ、特別支援教室巡回指導教員等と通常の学級の教員による連携を図り、発達障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服できる指導を充実させる。
- ◇ 地域や地球規模の諸課題を生徒一人一人に考えさせることで、持続可能な社会をつくるための資質・能力や態度の育成を目指す。

6 所属職員の人材育成と指導内容

(1) 研究・研修

- ◇ 自己申告に伴う個別面接（年3回以上）では、目標やその具体的な手立てを明確にするとともに、定期的な授業観察で指導し、生徒の実態に応じた授業改善を図る。
- ◇ 定期的な週案や学習指導計画の点検等により、授業時数を確保し、基礎的・基本的内容を確実に定着させるとともに、思考力や判断力、表現力などの向上を目指す。
- ◇ 平成27・28年度に東村山市教育委員会研究奨励校としての研究及び実践してきた「自尊感情や自己肯定感を高める教育活動の工夫」の成果をさらに発展されるために継続して、授業や特別活動等で深化・発展できるよう取り組む。
- ◇ 本年度の校内研究主題は、「新学習指導要領の全面実施に向けた教育活動のさらなる向上」とし、学習指導や評価の研究を実践する。
- ◇ 「主体的・対話的で深い学び」の実現をテーマとした学習指導案を全教員に作成させ、教員が相互に授業参観できるようにして、教員一人一人の授業力向上を目指す。

(2) ライフ・ワーク・バランス

- ◇ 管理職自らが教職員の模範となるよう、挨拶の励行、時間厳守、正しい言葉遣いを実践し、風通し良い明るい職場環境を構築し、教職員の心身の健康に気を配るよう努力する。
- ◇ 仕事とプライベート共に、充実できるように平日週1回は定時退勤できるように、仕事の効率化を促す。
- ◇ 一人一人のライフ・ステージに配慮し、教職員がお互いに思いやり、休暇等がとりやすい職場環境をつくる。